



San-en-nanshin-Biz

三遠南信 Biz

働く意欲が高まるグローバル情報紙

創刊 準備号

ご自由にお持ち下さい

2018年(平成30年)10月29日(月)

TOP INTERVIEW

地域を拓く

塚越 寛さん

伊那食品工業 取締役会長

特集 三遠南信サミット



交流とは経済活動だ

トヨタ自動車や帝人など、日本を代表するグローバルカンパニーのトップも共鳴する「年輪経営」で知られる伊那食品工業(本社・長野県伊那市)の塚越寛会長(81)は、リニア中央新幹線より三遠南信自動車道に期待している。その理由とは。三遠南信時代に備えた事業展開も交えて聞いた。

I N D E X

2-3

巻頭インタビュー

塚越寛さん
「三遠南信時代の経営ビジョン」



4-9 〈特集〉三遠南信サミット

4-5 「県境域連携の先進モデルを」
2018サミットと新ビジョン

6-7 過去25回を振り返る

8 地域の稼ぐ力強化プロジェクト

9 進む三遠南信自動車道建設工事



10-12 県境を越える
小さなファミリービジネス

10 古民家がロックな新名所に

11 山の工房にオーダー相次ぐ

12 塩澤組子を世界のアートに



三遠南信(さんえんなんしん)とは

愛知県東部の東三河地域を「三」、
静岡県西部の遠州地域を「遠」、
長野県南部の南信州地域を「南信」、
とした3県の県境にまたがる地域です。





TOP INTERVIEW

地域を拓く

開通による変化に今から備えを

伊那食品工業 取締役会長

塚越 寛さん

キーワードは「快適さ」

—三遠南信自動車道のどんな点に期待しているか

話の前提としてお伝えしたいのは、これからのキーワードは「快適さ」であるということ。人類の進歩は快適さを追求しているといつても過言ではない。

これはなかなか理解してもらえないことだが、生産性や効率はこの時代の価値観であり、これからはかなり変わってくる。

移動の時間も人生の一部であり、早ければいいというわけではないと私は考える。若い人はより楽しい方を好む。

一方で自動車の運転は楽しいし、私も好きだ。自分の意思で動かすことが楽しい。期待されている自動運転にも限界があり、運転は今後ふた手に分かれるだろう。「FUN TO DRIVE」は続く。

—三遠南信道は

実に険しい山の中を通り、ある意味で楽しいのでは。車窓から見える景色もいいのではないかと。トンネルを抜けるとパッと景色が広がり、運転すれば楽しいだろう。

それから、言葉は交流の度合いを表している、交流のあった地域は同じことばを使う。だから「くずら」などの伊那谷の言葉は静岡県と似ているでしょう。昔は歩いて移動して交流していたから、同じ言葉を使うのはその証拠といえる。

そのようにつながり、ふ



塚越会長が昨年撮影した三遠南信道の天龍峡大橋 (2019年度供用開始を予定)

ただつながりたいという昔からの願望があった地域間で、交流をはばんでいた険しい山が開き、ようやく三遠南信道でつながろうとしているのはすごいこと。歩いてきた時代と同じようになる。だから私は期待するのだ。

標高差のあるミカンの産地とリノゴの里を快適に移動できるようになる。違った土地に手軽に行けるようになるというのもすごいことで、いろいろな変化が予想できる。そこにも期待している。

交流が経済の成長を促進

—経済面では

快適な自動車運転で近くなる、交流が始まる。交流イコール



社員にも変化への対応をうながしている

経済活動と言っても過言ではなく、交流が経済の成長をうながす。

昔は中国と近い長崎や琉球など船の便のいいところが栄えた。要するに交流だ。ここでは人間が動くだけでも経済になる。実際にモノも動くんじゃないか。

空気が湿った海岸沿いの精密産業が長野県に求めるものはあるんじゃないかな。あちらの工業出荷高は非常に多い。飯田の側からしたら(県庁所在地の)長野市に行くより近くなってしまうわけだ。これはどうということになると思

うか。どうしたって何か変化が起きる。だから私は期待するのだ。

今はちよつと遠いが、東三河・遠州の人たちにもこちらにきたいという思いはあるはずだし、早く来られるようになれば上伊那まで来ても悠に日帰りしやすくなるんじゃないか。

泊まった方がいいけれど、交流ができればなんとなく経済は良くなるのでは。

飯田市では、市内20地区それぞれが地区の個性や魅力を大切に生かして、「住み続けたい、住んでみたい地域づくり」を目指した「田舎へ還ろう戦略」に取り組んでいます。

これを各地区が進めるにあたり、市では、各地区を直接応援することができる【飯田市20地区応援隊】を始めました。懐かしい風景があり、木々を揺らす風やお祭りの音など、どこか心安らぐ「ふるさと」としての地区を直接応援いただける仕組みです。

その返礼品は「地区との絆」。ふるさとからのお便りや写真により元気な笑顔をお届けしたり、遊びに来てくださいといったお誘いをさせていただくなど、いろいろな形で交流を返礼にしていきたいと思ひます。

寄附という制度を通じて、あらためて「ふるさと」と繋がり、世代を超えたお付き合いが生まれ、それが末永いものとなるよう願うものです。

飯田市 ふるさと定住支援課 長野県飯田市大久保町2534 TEL.0265-22-4511(内線5441)

https://furusato-iida20.jp/ E-mail:iifurusato@city.iida.nagano.jp 飯田市20地区応援隊特設サイト 検索

ふるさとの絆を いつまでも繋げるために

ふるさと納税

飯田市20地区 応援隊募集中

返礼は「地区との絆」

それは、目に見えないものかもしれませんが、ふるさとと長く繋がる仕組み

南北の移動は東西より有益

縦(南北)に移動するのは、横(東西)の移動よりいいことがある。横の移動は防災面ではあまり効果がない。

静岡県は特にその側面が強く、津波・南海トラフ対策の面でも縦につなげることが大事。以前、浜松の鈴木康友市長から、津波に備えて工業団地を山手に造ったと聞いた。土地は安くはないようだから、工場の一部を土地代の安いこちらに移しても差額が出てしまうんじゃないか。

ロープウェイ受け入れ強化を

—三遠南信時代に向け、自社としてはどんな展開を考えているか
1つは、中央アルプス駒ヶ岳ロープウェイ(駒ヶ根市)の受け入れ強化策。三遠南信道効果によるにぎわいが期待できるが、今でも夏場は混んでいる。
そこでロープウェイ経営会社の



駒ヶ岳ロープウェイ



かんでんばガーデン



もう一つの山岳観光地として整備が進む陣馬形山



中央アルプス観光と地元駒ヶ根市、当社、ヤマウラで研究会を続けている。登山・アウトドア用品のモンベルもそれに加わるようになった。今後は県外の視察もしながら具体的に動いていく。
当社は駒ヶ根の中心部にかなり広い土地があるので、それも有効活用するなどして協力する。

山岳観光地をもう一つ

三遠南信道を通ってこちらに来る皆さんにとって、上伊那はある意味で終点といえる。そうなることや(魅力は)山だ。

静岡には富士山があるが、手軽に登れる山はそれほどない。そこで中川村の陣馬形山をもう一つの「陣馬形山魅力創造プロジェクト」がある。ふるさと納税企業版の対象プロジェクトとしてすぐに立ち上げたので、うちが1000万円を寄付したら、村としての馬力も上がっている。

新たな観光施設も整備

—かんでんばガーデンがある本社周辺での展開は
近くに2200坪ほどの土地を買ってあり、道の駅的な観光施設を造ろうと思っている。飯田で降りて観光をする人が増えれば、広域農道は主要な観光道路になってくる。
気楽にトイレ休憩ができる高速

道路のサービスエリアみたいなものを想定している。

価値観の変化に対応を

—三遠南信時代に向け、南信州(飯田下伊那・上伊那)の行政や企業に期待することは

ここに暮らす人がまずこの地が良い場所だと認識し、将来を見据えてもつと宣伝していくといい。災害が少ないこと、つまり強い風が吹かないことを良さとして認識できているだろうか。それを踏まえて宅地造成をもつと思いつてやり、都市部やリスキーな地域の皆さんに住んでもらえば人口対策になる。

1戸あたり80坪や100坪程度でなく、200〜300坪くらいはとり、あらかじめ木を植えて公園化しておくくらいの発想は必要だ。

一番大切なことは価値観の変化に対応すること。繰り返すが、これからのキーワードは快適さ。「金

つかこしひろし 1937(昭和12)年、駒ヶ根市生まれ。肺結核のため高校を中退し、3年の療養生活を経て57年に地元の木材会社に就職。翌年、経営破綻状態だった寒天メーカーの伊那食品工業の社長代行となり、再建に奔走。相場商品だった寒天の安定供給体制を確立し、家庭で気軽に寒天菓子を作れる「かんでんば」シリーズ、寒天の成分を活用して医療・美容市場を開拓するなどして、48期連続の増収増益を達成した。「社員を幸せにし、社会に貢献すること」を企業経営の目的とし、外部環境に左右されずに会社を少しずつ成長させる「年輪経営」を提唱している。

が欲しい、ぜいたくをしたい」から「一番欲しいものは快適さ」になる。幸せの度合いが増すことを進歩というが、それを忘れていて経営者は多い。
昨年、働き方改革の先駆的存在といえるサイボウズの青野慶久社長とも話したが、土地が安く緑豊かな田舎の良さを生かし、快適に働ける環境があれば、家賃が高い東京にはオフィスの一部を残し、あとはこちらに...という展開も可能になる。
家庭だけでなく会社で過ごす時間も幸せなものにするには、働く場所にも快適さが必要。工場の面積は大きくなるが、事務所の快適さまではなかなか気が回らない。
当社は早くからそれをしていてから就職希望者は多く、人不足は関係がない。

長野県下伊那郡高森町

5月5日「子どもの日」
豊かな自然に囲まれた高森の地に
出産と子育ての不安や悩みを解消し、
健やかに育ちあうためのつどいの場が
産声をあげました。

その名も「あったかてらす」
子どもたちがプレイルームで遊び・学ぶ
パパ・ママはコワーキングスペースで働く
地域で支え合い、高森町の未来を育てます。

高森町女性活躍
子ども子育て拠点施設 **あったかてらす**

出かけよう
大人の
本物体験へ

フルーツ狩り|シードル農園|ワイナリー巡り
2つのアルプスの町 **松川町**

松川町役場/松川町元大島3823
TEL(0265)36-3111

県境域連携の先進モデルを

29日に三遠南信サミット

三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）は、第26回三遠南信サミット2018 in 東三河を29日午後、豊橋市で開く。今回は「三遠南信流域都市圏の創生～日本の県境域連携先進モデル～」をテーマに、第2次三遠南信地域連携ビジョン（2018年～2030年）の基本的合意を目指すともに、実効性のある取り組みにつなげるための議論を深める。全体会、分科会とも一般公開する。



手を取り合う三遠南信地域の首長と会頭(昨年のサミットで)

新ビジョン合意に向け

サミットは三遠南信地域を一体的に振興するため、1993年度から毎年開催。地域住民と行政、経済界、大学・研究機関が一堂に介し、議論を重ねてきた。今回は08年度に策定した現

年度から毎年開催。地域住民と行政、経済界、大学・研究機関が一堂に介し、議論を重ねてきた。今回は08年度に策定した現

ビジョンが期間の満了を迎えるため、地域づくりの新たな指針となる新ビジョンについて議論し、同日の基本的合意を目指す。ビジョンの決議は来年2月を予定している。

◇ 全体会は午後1時15分から、徳の国とよはし芸術劇場PLATで開催。新ビジョンへの期待」をテーマにパネルディスカッションを行う。

◇ 分科会は同3時25分からホテルアークリッシュ豊橋（駅前大通）とホテルアソシア豊橋（花田町西宿）で開き、連携ビジョン重点プロジェクトの進め方について意見を交わす。

「道」分科会は連携に向けた道の活用、住民の一体感醸成と交流を促進するための情報共有・発信について話し合う。

「技」分科会では既存産業の活力を強め、新産業を地域に取り込むために必要な取り組みを考える。

「風土」分科会では地域資源を生かした観光振興、中山間地域の活性化について協議する。

「住・人」分科会は、住み続けたいと感じる地域づくり、地域の未来を担う人材の育成と定着のため、どんな取り組みが必要か意見を交わす。

第26回 三遠南信サミット2018 in 東三河

会場 ①穂の国とよはし芸術劇場 PLAT
②ホテルアークリッシュ豊橋
③ホテルアソシア豊橋

全体会 会場①

● パネルディスカッション
テーマ「新ビジョンへの期待」

● コーディネーター
池上重弘氏
(静岡文化芸術大学副学長)

● パネリスト
鈴木康友・浜松市長
(三遠南信地域連携ビジョン推進会議会長)
岩田美幸氏
(国土交通省中部地方整備局企画部長)
萩本範文氏
(南信州・飯田産業センター専務理事)
前田忍氏
(浜松・浜名湖ツーリズムビューロー理事・事業本部長)
井上隆信氏
(豊橋技術科学大学副学長)

分科会

● 「道」分科会：会場②
テーマ：「中部圏の中核的都市圏となる地域基盤の形成」に向けて

● 「技」分科会：会場③
テーマ：「革新を取り込む産業創造圏の形成」に向けて

● 「風土」分科会：会場③
テーマ：「流域文化圏の形成」に向けて

● 「住・人」分科会：会場②
テーマ：「安全安心な広域生活圏の形成」「地域の持続的発展に向けた人材集積地の形成」に向けて

報告会

午後5時55分～同6時25分、会場②

交流会

午後6時半～同8時、会場②

地域おこし協力隊 OB・OGのその後に学ぶ



協力隊OBが語る(写真は設楽町・山の搾油所の杉浦篤さん)

同日開催の住民セッション
三遠南信住民ネットワーク協議会が主催する「住民セッション」は同日午前10時から、ホテルアソシア豊橋で開催。「三遠南信地域おこし協力隊OB・OGフォーラム―地域おこし協力隊のその後から学ぶ」と題して、圏域内の自治体採用された隊員のうち、起業などにより定住した元隊員の事例報告を聞き、意見交換する。

事例報告は設楽町と浜松市、泰阜村の元隊員。現役の協力隊によるPRタイムも予定している。終了は正午。

●三遠南信とは

愛知県東部の東三河(三)、静岡県西部の遠州(遠)、長野県南部の南信州(南信)からなる県境地域。古くから「塩の道」を通じて人や物資が往来し、特徴的な文化圏を形成してきた。廃藩置県、高速交通網の影響などにより古くからの交流の形が失われつつあったが、新たな塩の道「三遠南信自動車道」の整備が進む中、県境を越えて再び連携し、自立性の高い地域にしようと、広域的な地域づくりを進めている。取り組みは「全国県境連携の先進的なモデルになり得る」とされている。

●SENAとは

2008年に策定された現「三遠南信地域連携ビジョン」の実現に向け、09年に設立された官民連携組織。39市町村、53商工会議所・商工会、愛知・静岡・長野県で構成する。

南信州の台所
とよおかマルシェ
道の駅 | 豊丘村
豊丘村大字神稲12410 TEL(0265)48-8061

今年4月にオープンしました

ずっとふるさと
もっととよおか 豊丘村
豊丘村キャラクター「だんくん」 役場/豊丘村大字神稲3120 TEL.(0265)35-3311

南アルプスと歌舞伎の里
大鹿村
大鹿鹿丸 大鹿村 検索 大鹿景清

道の駅「歌舞伎の里大鹿」 大鹿歌舞伎

新ビジョン

リニア13年を目途に策定

新ビジョンはリニア、三遠南信道の完成からおおむね3年後を想定して策定した。テーマは「三遠南信流域都市圏の創生―日本の県境連携先進モデル」。具体的な事業は主体を明確にして進め、SENAはその土台として、主体間の連携をサポートする形をとる方針。

「三遠南信流域都市圏の創生」は、古くから交流する中で「一体的な流域都市圏」を形成してきた三遠南信地域の住民が、地域の持続的な発展と自立のため、この地域を創生するという考えに基づいている。

「日本の県境連携先進モデル」は、これまで実践してきた地域間交流・連携を踏まえたもので、「日本の県境連携をけん引し、国地方創生に貢献する」という意気込

みを示している。

現ビジョン実現のため、2009年に設立されたSENAは「三遠南信流域都市圏の創生」という新たな価値を形成するための土台と位置づけ、価値を共有する主体間の多様なプラットフォームづくりをうながす計画で、新ビジョン案ではその機能を「SENAプラットフォーム」と表現している。愛知・静岡・長野県の市町村に暮らす住民が、三遠南信地域にも

具体的事業の主体を明確化

属していると自覚し、地域連携の成果を得るための「装置」としての役割が期待されている。地域連携の方針には、新たに「人」を追加。人口減少や少子高齢化が進む中、次世代を担う人材の育成や確保、多様な文化が共生する社会づくりを通じて、地域の持続的な発展に向けた人材集積地の形成を目指す。

重点プロジェクトは「三遠南信交通ネットワーク形成」「三遠南信圏民の一体感醸成」「地域の稼ぐ力強化」「三遠南信探訪」「中山間地域が輝く」「住むなら三遠南信」「人生100年時代」の7つ。



三遠で盛んな軽トラ市

接続道路の整備促進に加え、インフラのストック効果を高める効果的な利用法も検討する。

一体感醸成プロジェクトでは情報共有・浸透、稼ぐ力強化プロジェクトでは農産物の販路拡大、IoTやフィンテック、ビッグデータ

一タ、人口知能など新技術の新産業の創出・集積、軽トラビジネスなど地域の特徴を生かしたソーシャルビジネスの促進、産業連携の促進を目指す。

三遠南信探訪プロジェクトには、三遠南信道などの開通により交通量の減少が予想される国道、中山間地域の鉄道を活用したサイクルツーリズムも盛り込んだ。

中山間地域が輝くプロジェクトでは、地域おこし協力隊のネットワーク化支援、住むなら南信州プロジェクトでは広域連携のスケールメリットを生かした婚活支援や移住・定住支援も計画している。

人生100年時代プロジェクトでは、地域の未来を担う人材の育成や定着のため、人材交流機会の創出・拡大や地域教育活動を進め、三遠南信に関する地域教育にも取り組む。

ビジョンの比較

項目	現	新
期間	おおむね10年(2008年~2018年)	12年間(2019年~2030年)
テーマ	三遠南信250万流域都市圏の創生―世界につながる日本の中央回廊―	三遠南信流域都市圏の創生～日本の県境連携先進モデル～
地域像 目指すべき	①日本の中央回廊の形成 ②大伊勢湾環状地域を構成する中核的都市圏の形成 ③流域循環圏の形成	①大都市・世界と結ばれる広域連携都市圏の形成 ②中部圏での中核的都市圏の形成 ③流域循環圏の形成
地域連携の方針	「道」 中部圏の中核となる地域基盤の形成 「技」 持続発展的な産業集積の形成 「風土」 塩の道エコミュージアムの形成 「山」 中山間地を活かす流域モデルの形成 「住」 広域連携による安全・安心な地域の形成	「道」 中部圏の中核となる地域基盤の形成 「技」 革新を取り込む産業創造圏の形成 「風土」 流域文化創造圏の形成 「人」 地域の持続的発展に向けた人材集積地の形成 「住」 安全・安心な広域生活圏の形成

より人に温かいビジョンに

静岡文化芸術大学副学長 池上 重弘さん

最初のビジョン策定から10年が経過して策定される今回の新ビジョンは、この間の社会経済の変化や今後加速的な進展が予想される日本社会の構造的変化を視野に入れ、総合的かつ大胆な方向性を提示している。

リニア中央新幹線構想がより具体化するとともに三遠南信自動車道をはじめとする道路網の整備が進み、交通基盤整備の進展に伴う交流・連携活動の深化が期待される。IoTやAIという言葉はもはや新語ではなくな

新ビジョンは産業基盤整備に重点のあったこれまでのビジョンとは異なり、人の生き方、地域のあり方にも十分な目配りをしている。より人に温かいビジョンと言えるだろう。三遠南信地域に住む人が「この地域で生きて良かった」と思えるようなビジョンとして、血の通った施策が展開することを期待したい。



光がさらなる隆盛を迎えようとしている今、三遠南信地域固有の地域資源の活用による地域の拡大を目指している。少子高齢化、中山間地域の過疎化の進展、ライフスタイルの変化等によって20世紀

環境省認定
標高1400m
日本一の星空



天空の楽園
日本一の星空
ナイトツアー

阿智☆昼神観光局

阿智村智里338-25 TEL:0265-43-3001
http://www.hirugamionsen.jp/

人が輝き 未来につながる 美し郷 喬木

うま 喬木村

サミット 25回の歩み

■第1回 1994年(平成6年)2月10日
三遠南信地域に今、21世紀の風が吹く」
協働宣言発表

三遠南信地域59市町村の行政と経済人の代表が一堂に集まる「三遠南信サミット&シンポジウム」が浜松市のグランドホテル浜松で初めて開かれた。パネルディスカッション「新たな県際交流圏の創造に向けて」に続き、行政・経済の二つのサミットに出席した双方の代表が「三遠南信地域整備計画」の推進などを盛り込んだ共同コミュニケ(浜松宣言)を発表した。

■第2回 1994年(平成6年)11月21日
「交流がつくる三遠南信の未来」

■第3回 1995年(平成7年)10月11日
「次代に向けて動く三遠南信」

飯田市で初開催
3回目となる「三遠南信サミット&シンポジウム」が初めて飯市のシルクホテルで開かれ、「首都機能誘致に向けての取り組み強化」を盛り込んだ経済サミット宣言を全会一致で採択した。

■第4回 1996年(平成8年)11月22日
三遠南信地域の新たな連携と共生に向けて」

■第5回 1997年(平成9年)11月17日
三遠南信地域の新たな連携」



■第10回 2002年(平成14年)7月24日
「快適空間・三遠南信」

■第11回 2003年(平成15年)10月27日
「南信州」

■第12回 2004年(平成16年)11月25日
「新たな歴史の扉を拓く」

■第13回 2005年(平成17年)11月4日
「三遠南信・新たな時代の幕開け」

早期開通期成同盟会が設立
「三遠南信・新たな時代の幕開け」夢街道いよいよ実現へをテーマに、三遠南信自動車道の必要性を再確認。また三遠南信災害時相互応援協定の調印式および三遠南信自動車道早期開通期成同盟会の設立総会も併せて行われた。

■第14回 2006年(平成18年)10月23日
三遠南信・圏域の創生をめざして」

■第15回 2007年(平成19年)11月14日
「将来あすへの展望」

連携ビジョン初公開へ
将来(あす)への展望「今、三遠南信地域の新たな協創のとき」を全体テーマに掲げ、道州制に至る準備段階として、概ね10年間を目標に三遠南信地域の目指すべき将来像の方針を定めた「三遠南信地域連携ビジョン」の全体像が初めて公開された。

■第16回 2009年(平成21年)2月10日
三遠南信250万流域都市圏の創造に向けた挑戦」



1994年2月13日付の南信州新聞紙面

■第6回 1998年(平成10年)10月8日
「次代に向けて動く三遠南信」

交流から参加、連携へ
2巡目のしんがりとなる「サミット&シンポジウム」は、過去5回の総括を踏まえ、交流から参加と連携による新たな段階へのアピールする場との狙いを込めて、テーマに「三遠南信地域の新たなステージをめざして」交流から参加と連携」を掲げた。

■第7回 1999年(平成11年)7月23日
「人が、物が、そして地域が動く」

三遠南信道建設促進へ
「人が、物が、そして地域が動く」をテーマに開催。取り組みの方向として▽三遠南信自動車道と伊勢湾口道路の建設促進▽中部地域のゲートウェイとしての機能整備▽広域観光レクリエーションゾーンの形成▽新規産業創出に向けての取り組み▽地域間連携の充実強化▽首都機能誘致への取り組みの6項目を盛り込んだ「共同宣言」を採択した。

■第8回 2000年(平成12年)7月26日
「絆、そして融合」

■第9回 2001年(平成13年)11月8日
「交流新世紀」

初の分散会方式で開催
「交流新世紀」三遠南信地域「ふるさと」の共有をメインテーマに飯田市で開催された。行政サミットを初めて分散会場方式で実施。サミットの成果を基にまとめた「共同宣言」は、従来のハード整備促進から住民サイドの交流推進に重点を移すとともに、「新世紀環境のサミットにふさわしく環境を意識した地域づくりを盛り込んだ。



2007年11月15日付の南信州新聞紙面

■第17回 2009年(平成21年)11月13日
「日本の県境連携モデルの構築」

セナが初めて主催
これまで開催地ごとに組織されていた実行委員会に代わり、三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SEN A)が初めて主催した。

■第18回 2010年(平成22年)11月12日
「地域主権時代における県境地域連携モデルの推進」

■第19回 2011年(平成23年)10月24日
三遠南信流域都市圏構築への挑戦」



■第20回 2012年(平成24年)10月2日
「第20回記念サミット」

■第21回 2013年(平成25年)10月30日
「新しい連携体制の実現に向けて」

■第22回 2014年(平成26年)10月27日
「くまわりゆく社会環境のなかで、三遠南信の特色を活かした地域発展を目指して」

三遠南信サミットを振り返って

手元にある三遠南信サミットの報告書25冊を読み返してみると、改めて本サミットの歴史を感じる。第1回は平成6年2月10日であり、四半世紀をこえる県境を越える越境地域連携の「連携組織」共通した地域づくりの方針である「地域計画」それらの前提として、県境を越えて人々が集まり協議する「合同の場」が必要である。「三遠南信地域」として、「合同の場」にあたるのがサミットである。

三遠南信サミットは、全国の県境地域連携の「合同の場」としても、3つの際立った特徴を持っている。第1は、行政、経済、市民、大学などの横断的な機関が集まっていることであり、全国的にもこうした例を見ることはできない。市町村と商工会議所、商工会在中核であるが、第13回からはサミットに「住民セッション」が加わり、近年は市町村議会の集まりなど幅広い。第2は、サミットごとに宣言文を出していることである。第1回から第6回までは、行政サミット宣言と経済サミット宣言に分かれて各々の宣言がなされた。

愛知大学三遠南信地域連携研究センター長 戸田 敏行 さん



れており、それ以降は1つの合同宣言と自動車道など基盤整備の促進、産業の振興や地域文化などの事業、そして県境を越えた広域連合などの「連携組織」が強調されている。第3の特徴は「地域計画」の推進および策定の母体となっていることである。第1回から第9回までは、各県庁が主体となった「三遠南信地域整備計画」の推進を目的としており、第14回から「三遠南信地域連携ビジョン」の策定と推進である。「三遠南信地域整備計画」と「三遠南信地域連携ビジョン」への地域計画の空白期にあたる第10回から13回のサミットでは、サミット宣言も出されておらず、地域計画とサミットの連動性を感じさせる。

これまで最も印象に残っているサミットは、2006年の豊橋サミットである。当時、道州制の議論が現実化しており、県境を越えた地域形成も身近に思えた。ところが、与党案のいずれも長野県が外れる提案となっていた。こうした状況に対して、このサミットで「三遠南信地域の全ての市町村が同じ区別になること」を決意したのである。これは長野県に属する南信州地域の市町村にとっては英断であり、東三河地域、遠州地域からの参加者もそのように受け止めた。この決議を基に、第1回の「三遠南信地域連携ビジョン」の策定が始まり、今日の新ビジョンに至っている。

さて、新ビジョンの目標年となる2030年には、ニア中央新幹線が開通しており、国土構造の変容が見込まれる。また人口の変化も大きく、これに対して、2030年を目途とした三遠南信自動車道をはじめとする基盤整備、地域産業強化、新たな人材を引き付けようとする100年時代の生き方などがビジョン案に盛り込まれている。これら一つ一つの事業の具体的な絞り込みと推進体制が、サミットから生み出されることを期待したい。

多様な声取り込むプラットフォームに

一般的な市民の感覚からすると、三遠南信という言葉はもっぱら「三遠南信自動車道」と結びついて認識されていると言っても過言ではないだろう。三遠南信に該当する地域の住民で、「三遠南信」にある種の地域実態として意識しながら生活している人は、決して多数派とは言えない。三遠南信サミット自体も当初は道路や鉄道など交通網の整備によって産業面の交流を推進し経済発展につなげようという意識が強かったように感じられる。地域内の行政、商工会議所、経済界の関係者が集まる場というのが外部から見た印象だった。

ここ数年はインバウンド観光の隆盛による交流人口の拡大や、少子高齢化の進展による社会構造の変化が顕著になっており、三遠南信サミットで議論されるテーマにもより社会的な

静岡文化芸術大学副学長 池上 重弘 さん

的な内容が増えてきた。包括的な視点での議論が展開するようになってきたと評価できよう。

しかし他方で、ビジョン策定の議論に参画する人たちを見ると、まだ20世紀の色彩が濃く残っていると評せざるを得ない。行政、商工会議所等からの参加者は圧倒的多数で、層以上の男性であり、社会の多様性を反映する形からはほど遠い。サミットの折りに開催される分科会では2005年から地域住民セッションが始まっており、その後も分科会では多様な立場の意見が表明されている。今後さらに、女性や若者、高齢者、外国人、社会的なハンディキャップを持った人びとなど、多様な住民の声を取り込んだプラットフォームとしての機能を高めれば、地域住民にとって三遠南信はより身近な地域実態となってゆくだろう。

■第23回 2016年(平成28年)2月15日
「県境連携の蓄積を活かした三遠南信地域の創生」

三遠南信自動車道開通時の地域内における経済効果について、道路建設への直接投資によってもたらされる整備効果60.2億円、日帰り観光客増加による効果(87.9億円)と交通時間節約による効果(43.3億円)を合わせた開通効果を131億円とする試算を発表した。

■第24回 2017年(平成29年)2月15日
「みちがはくくむ三遠南信の未来」

■第25回 2017年(平成29年)10月30日
「250万流域都市圏、自立への喚起」

新ビジョン策定に向けて
第25回三遠南信サミットは浜松市を開場に開かれた。250万流域都市圏、自立への喚起が新ビジョンの策定に向けてをテーマに、2008年に策定された連携ビジョンを地域状況の変化を踏まえた新ビジョンに移行するため、取りまとめが進められた。



基本合意目指す
三遠南信流域都市圏の創生」

■第26回 2018年(平成30年)10月29日
三遠南信流域都市圏の創生」

三遠南信流域都市圏の創生、日本の県境連携先進モデル」をテーマに、第2次三遠南信地域連携ビジョンの基本的合意を目指す。

風水薫る ときめきの郷 やすおか

瞳かがやく 下條村

瞳かがやく 下條村

矢作川源流の郷 根羽村

矢作川源流の郷 根羽村

喜びがゆきかう里「ひらや」 平谷村

喜びがゆきかう里「ひらや」 平谷村

農産物をマレーシアに

第2次三遠南信地域連携ビジョンには、行政や経済、民間団体などが主体となつて進める具体的な取り組みが、7つの重点プロジェクトに分類されている。基本方針の一つ「革新を取り込む産業創造圏の形成」につながる「地域の稼ぐ力強化プロジェクト」のうち、豊橋と田原、浜松、飯田の4市がマレーシアを対象に昨年度から取り組んでいる農産物の海外販路開拓(三遠南信連携農産物輸出事業)は「実が伴った圏域連携」スケールメリットがある」として期待が大きい。

豊橋・田原 浜松・飯田 4市連携で稼ぐ力を強化



現地スーパーでのプロモーション (昨年11月)

スケールメリット生かし

多品目化と通年供給を

2016年の市町村別農業産出額の全国ランキング上位の田原市(1位)と浜松市(7位)、豊橋市(9位)、太平洋沿岸にないリンゴ、台湾・香港への輸出量が多い市田柿などの農産物を生産する飯田市が連携することにより、農産物の多品目化と通年供給を―と具体化。4市にとつて未開の国で、日本産青果物が伸び始めているマレーシアを輸出対象国に選んだ。

昨年は、首都クアラルンプールの現地スーパー5店舗で9月に試験的な販売を行い、11月にプロモーション販売を10日間展開。豊橋は次郎柿とミニトマト、エディブルフラワー、ラディツシユ、田原はアロママメロン、次郎柿、飯田はシャインマスカット、梨の南水売り込んだ。

豊橋と田原は市長がトップセールスを行い、海外での三遠南信連携に意欲をみせた。10月には輸入業者と現地スーパーのバイヤーを浜松と豊橋、田原に招き、農場見学や意見交換を行っている。本年度は11月16〜25日、来年1月18〜27日にプロモーション販売を行い、バイヤーは招く計画。市田柿の収穫・生産工程などを見せる。

飯田市農業課の担当者は「市田柿のコアターゲットは購買意欲の高い中華系。春節に向けてアピールしたい」と話している。今後はマレーシアでの取り組みを続ける中で、生産者や農協などと連携を深めながら、民間主導型の産地間連携による通年販売の確立を目指していく考えだ。



三遠南信農産物の特設コーナー



飯田産シャインマスカットの試食

その他の「地域の稼ぐ力強化プロジェクト」

- 地域通貨の導入可能性調査事業(新)
 - ・産学官金で研究会を立ち上げ、2019年度に実証実験を実施予定
- 軽トラビジネス推進事業(新)
 - ・2021年に「三遠南信軽トラ市」を計画。年1回の開催を検討
- 三遠南信地域新技術・新工法展示商談会の開催
 - ・大手メーカー社内で展示商談会を行う

神々が湯あみする、
秘湯の館

信州最南端の秘湯

天龍温泉 おきよめの湯

長野県下伊那郡天龍村神原5786-14 営業時間 10:00~21:00(受付終了20:00)
Tel.0260-32-3737 定休日 毎週火曜日(但し祝日の場合翌日が休館)
http://www.vill-tenryu.jp/okiyomenoyu.htm

道の駅 南信州うるぎ

道の駅 オープン!

うるぎふるさと館

■営業時間/午前9時~午後4時
■定休日/無休 ※冬期:水曜定休

つみくさ食堂

■営業時間/午前11時~午後2時
■定休日/毎週水曜

☎(0260)28-1051 長野県下伊那郡売木村 543-1

とろりとしたお湯が人気

うるぎ温泉

■営業時間
午前9時~午後9時
※冬期:午前10時~午後8時
■休館日/毎週水曜

長野県下伊那郡売木村 45-50
☎(0260)28-2334

特集 三遠南信サミット



●天龍峡大橋
 天龍峡―龍江インター間で、最大の構造物となる天龍峡大橋(橋長2800m)は、名勝天龍峡に位置する高さ80mの鋼製上路式アーチ橋。桁下に設けられる幅約2mの歩道と、その特徴的な形状が大きな注目を集めている。



地図で見る 三遠南信道の整備状況

三遠南信地域を結ぶ軸

三遠南信自動車道は、中央自動車道飯田山本インターから、新東名高速道路浜松いなさジャンクションに至る、延長約100kmの高規格幹線道路。奥三河、遠州、南信州の「三遠南信地域」をつなぐ広域ネットワークの軸となり、災害に強い道路機能の確保、救急医療活動の支援、物流の促進や交流人口の増加による地域活性化など、さまざまな効果が期待されている。

開通区間着実に延伸

これまでに国が管轄する区間約29.3kmと、現道活用区間として長野県が管轄する国道152号区間約19kmの計約49kmが開通済み。本年度中には佐久間道路・三遠道路の佐久間(仮)―東栄(仮)インター間6.9kmが、来年度中には飯倉道路天龍峡―龍江インター間約4kmが開通予定となっている。



●青崩峠トンネル

飯田市南信濃と浜松市水窪を結ぶ青崩峠道路約6kmのうち、5kmを占める青崩峠トンネル。2014年から調査坑の掘削工事が行われ今年7月末までの掘削延長は約4.6kmに。本年度中には、いよいよ本坑の掘削工事に着手する。



●浜松いなさJCT

三遠南信道の終点となる浜松いなさJCT。2012年4月に新東名高速と接続した。これにより飯田―浜松間の所要時間は従来の一般道利用と比べ、約3割の短縮効果と試算。沿線の道で来場者数の増加が見られるなど、交流人口の増加に寄与している。



●佐久間(仮)―東栄(仮)IC間

本年度中の開通を予定する、佐久間(仮)―東栄(仮)IC間の浦川(仮)IC付近。右手が佐久間IC、左手が東栄IC方面。間近に迫った開通に向け、改良工事トンネル設備工事及び舗装工事などが進む。

茶白山高原の芝桜の丘 見頃●5月中旬～6月初旬

愛知のてっぺんとよね村

豊根村観光協会 愛知県北設楽郡豊根村坂字場字宮ノ嶋29-3 TEL.0536-87-2525

地域と人をつなぐ確かな暮らし あなんTOWN

阿南町

栗野の囃子屋台、深見の紙囃祭り、新野の盆踊り、新野の雪祭り、早稲田人形浄瑠璃、和合の念仏踊り

県境を越える小さな
ファミリービジネス

店のなかった集落に活気



カウンターに立つ
河原和明・タナ夫妻

三遠南信道(三遠道路) 鳳来峡IC―浜松いなさ北IC間の開通効果で、浜松市方面からの観光客が増えている愛知県東栄町に昨年11月、日米の夫婦が経営する「古民家ダイナー月猿虎」が開店し、県外客と地元客でにぎわう人気スポットになっている。

ともにバンドマンだった名古屋出身の夫、河原和明さん(44)とミネソタ出身の妻タナさん(50)は、奥三河で日帰り山歩きを重ねる中で、伝統を色濃く残す東栄町の花祭りに感銘を受け、名古屋からの移住を決意。築約100年の古民家を店舗兼住宅に選んだ。

リノベーションした店内は和と洋のしやれた雰囲気、調和し、ハードロック風デザインオリジナルTシャツやバッグも独特の雰囲気を出している。店名は2人の干支と集落名の「月」からとった。提供する料理は、東栄町産のブランド肉「錦爽鶏」

古民家ダイナー月猿虎

古民家がロックな新名所に

- 月猿虎 人気の要因**
- ・明治以降店が一軒もなかった集落に、レトロモダンな飲食店という意外性
 - ・ニーズの違いに対応(観光客には東栄町でしか食べられないもの、地元客には東栄町では食べられないものが人気)
 - ・趣味を生かした自由な営業

古民家ダイナー月猿虎

〒449-0212
愛知県北設楽郡東栄町大字月布川田11-4
TEL 0536 (76) 0303
営業日: 木・金・土・日



で作る手羽先などの和食と、自家製チリソースを使ったテキサス・メキシコ風料理(テックス・メックス)が2本柱で、和食は両親が経営する名古屋の居酒屋チエーンで腕を磨いた和明さん、テックス・メックスは米国のスーパードラッグ部門を担当していたタナさんが調理する。

治以来、初めて店ができた「歩いて飲みに行ける」と喜ばれているという。県外客には鮎料理や猪肉のメンチカツ、鹿肉ハンバーグなど、地元素材を使ったローカルなメニュー、地元客には新鮮な魚介類、静岡県伊豆市から取り寄せる月替わりのクラフトビールなど、東栄町では入手しにくいものが人気だ。

新聞やテレビ、雑誌で取り上げられた影響で、昼は豊橋や豊川、浜松、豊根など県内外から訪れる30〜60代の女性客でにぎわう。居酒屋営業の夜は地元客が中心。近くの住民からは「明

タナさん手作りのスイーツも好評で、地元の若者には手作りココアが好まれている。BGMは客層に応じてルーティック、ジャズ、R&Bと流し分け、月1回

のライブも恒例化した。「ジャガイモを育ててやとりや死なせんわ」と腹をくくって起業したが、開店1年目の営業は順調で、ほぼ事業計画通りだ。名古屋で出店すれば3、4倍の初期費用が必要なのに、ランニングコストも高くないことが何より大きい。決め事の多いチエーン店ではできなかった自由な展開も楽しそうだ。

東栄町は本年度中に三遠南信道の東栄IC―佐久間IC間、数年後には鳳来峡IC―東栄IC間が開通して、都市部へのアクセスが飛躍的に向上する。町はこの好機に移住定住施策に弾みを付けようと、積極的な受け入れ策を展開している。和明さんは「東栄町の皆さんはおおらかで閉鎖的ではなく、最初から歓迎してくれた」、タナさんは「この空気と景色、地元の人、全部大好き。一時帰国すると『早く山に戻りたい』と思うし、名古屋も疲れるから戻りたくない」と話す。



ボリウムがあるチリマカロニとパンチが効いた辛さの手羽先。手作りスイーツも人気がある。

和とロックテイストを融合させた店舗兼住宅

屋号をめぐる旅① 「食事処 三河家」 (飯田市)

昔から使っている屋号の「三河家」は初代の出身地(東三河(愛知県旧宝飯郡)にちなんだもので、看板メニューは信州そばと浜名湖産のうなぎ。三遠南信がオールインワンになった庶民派の人気店だ。初代は鳥料理店、2代目は料理屋と置屋を営み、3代目から食堂に。店をリニューアルし、5代目の坂田英之さん(45)が店主に就いた。昨年11月から昼は食堂メニュー、夜は居酒屋メニューを中心に提供。小宴会も開ける。東三河とのつながりは途絶えてしまったが、飯田を訪れた三河在住者が、屋号に親しみを感じて来店するケースは少なくない。忙しい時間帯でなければ、スタッフ談話にも対応してくれる。

〒395-0033
長野県飯田市常盤町1
TEL 0265(22)0293
月曜定休

四季折々の自然に恵まれた森

段戸裏谷 原生林

さららの森

◎段戸湖ではルアー・フライフィッシングが楽しめます

設楽町観光協会 愛知県北設楽郡設楽町田口辻前14
TEL.0536-62-1000 FAX.0536-62-1332

県境を越える小さなファミリービジネス

山の工房にオーダー相次ぐ



メインは7~10万円台。「竹バッグで10万円以下なら、(価値を)知っている人は『安い』と言ってくれます」

浜松市天竜区春野町の人里離れた一軒家に住む竹職人、鈴木げんさん(43)が作る竹製のかばんが話題になっている。「一から作り、長く付き合える天然素材、無着色のバッグ」というポリシーが多くの人々の共感を呼び、受け渡しまで数年待ちという人気ぶりだ。

浜松市中区に生まれ、地元で開業したデザイン工房で企業のホームページやチラシ、冊子などを手掛けていたが、仕事を通して知り合った新城市の竹職人、菅沼伸之さんと語り合ううちに、曾祖父と祖父もなりわいとした竹細工への思いが高まり、仕事を続けながら

同氏に師事した。

竹細工の優れた職人が多く、大分県別府市での単身修行を経て、2010年に竹職人として独立。百貨店でも実演販売を始め、16年から春野町の山の上に自宅兼工房を構えた。

地元素材の竹かばん人気

竹の鞆GEN

目と手の届く範囲でのものづくり

- ・地元素材への徹底したこだわりは製品に留まらず時代に流されない信念
- ・通販に頼らず、顔の見える関係とアフターケアを重視
- ・山暮らしは子どもの頃からの夢

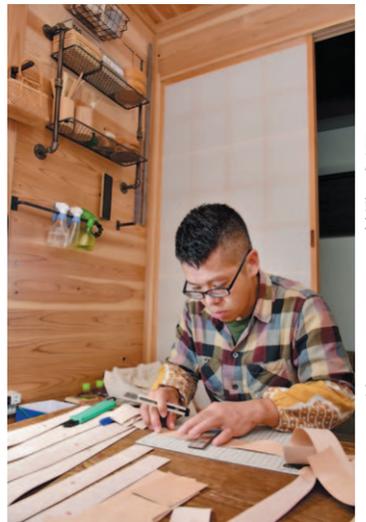
竹の鞆GEN

〒437-0601 静岡県浜松市天竜区春野町川上309 TEL 080(4303)9211



くに自生する節間の長い4年生の真竹を使う。本体の編み方は、竹ひごの幅と厚みを均一に揃え、隙間なく編み込む「網代編み」。国産の渋柿を使って染め、持ち手と四隅には染色していない牛皮を使うため、経年変化が楽しめる。内布は伝統の遠州木綿。同市北区に住む職人肌の母親が加工している。販売は春野町の工房での受け渡し、有名百貨店や呉服店での展示のみ。通販をしないのは「バッグに触れて、工房や竹林も知ってもらい、それらも込みで使ってもらえたら」という思いからだ。価格は7~10万円が中心で、40代~60代の女性が

段使いに買い求めるケースが多い。工房内は、見られることを意識した工夫が随所に施され、壊れたバッグを持参すれば、ユーザーがお茶を飲む間に修理を終える。「山の中にある古民家で暮らしたい」という思いは、母方の祖父が育った長野県下伊那郡大鹿村にある築300年の家を訪ねてから、ずっと温めてきたもので、今に始まったことではない。素材へのこだわりは、作品に留まらない。古民家をリノベーションする際「新たに使う材も地のものでなければ」と考えたが、現代の流通システムでは、春野町産の木材は指定できない



ユーザーも入れる工房や生活スペースは、随所に鈴木さんのセンスが光る



私物のバッグは8年もの。育てると濃いあめ色になり、味が出る

これが分かった。これに妥協するのが普通だが、鈴木さんは仲間の協力を得て伐採の現場で目印を付けた木を指定することで、念願だった春野産材を手に入れた。

「目と手の届く範囲でのものづくり」は、14年に個展を開いたスイスのジュネーブでも高い評価を受けた。ものづくりの国で認められたことは大きな自信となったが「90歳近い新城の師匠には『まだまだだ』と言われます」と笑顔で話す。皮はこれまで業者から仕入れてきたが、近く春野産の鹿皮が使える見込み。2020年には春野の工房で展示会を開く計画だ。

三遠南信の共通語

三河弁を応用して飯田弁のせりふを渡辺いっけいさん

(俳優、豊川市出身)

来年公開予定のオリジナル映画「いつくしみふかき」に主演し、飯田弁のせりふに挑戦した。「使い慣れた三河弁と語尾がほぼ一緒。役者になって初めて三河弁が生かされた」と笑顔で話した。演じたのは集落を敵と国道151号でつながっているから親しみがあふれる。父親が国鉄職員だった影響もあり、子どもの頃から電車で訪ねたかった」と飯田への思いを語った。



渡辺さん(左)と飯田(右)は、三河と飯田の共通語を研究し、三河弁と飯田弁のせりふを交ぜて関係者を喜ばせた。

三遠南信地域 最近の話題

◇浜松市が2019年ラグビーW杯の公認キャンプ地に、日本代表とスコットランド代表の公認キャンプ地に正式決定。

◇リニア対応を3県で共同研究 中間駅が



できる長野、山梨、岐阜の3県知事がリニア開業に向け、共同研究会を設置する方向で合意。広域観光、交通網整備、2次交通の充実などを探る。

◇飯田市がリニア長野県駅(同市)周辺整備の基本デザイン案を発表 伝統工法の「木格子」で形成した大屋根(写真)を駅の新ボルに位置付ける。

◇東三河広域連合が地域外で物産と観光フェア アイオンの連携を生かし、10月6~8日にイオン岡崎南店で「ほの国 東三河の物産と観光フェア」を開催。8市町村の銘菓や農産物を販売した。

県境を越える小さなファミリービジネス

塩澤組子を世界のアートに

組子細工は、小さな木片だけで精密な模様を編み出す伝統技法。障子や欄間に施すのが一般的だが、長野県下伊那郡高森町で塩澤工芸を営む塩澤正信さん(44)は、組子細工をアートインテリア作品に昇華させ、第一人者として活躍している。目標は「塩澤組子」の世界発信。4人の子どもがその夢を後押しする。

塩澤さんは2001年に全国総理大臣賞を史上最年少の国建具展示会で、最高賞の内 27歳で受賞。その後、曲線を

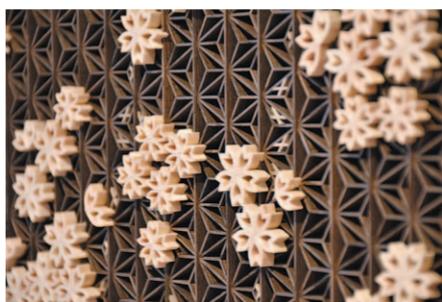


長女と長男が父の元で修業を始めた。次女と次男も後に続く考え

多用した作風を確立し、現在は独立したアート作品としての組子細工を手掛けている。小学生の頃、建具職人だった父と見に行った全国建具展示会で精巧な組子細工に触れ、座り込んでしまうほどの衝撃を受けた。

「最年少受賞記録(当時28歳)は自分が塗り替える。組子を一般にも親しみやすいものにし、海外に発信する」というライフプランはこの日のうちに立て、入賞作品を参考に組子作りを続けてきた。

1年でも早く全国展に出品するため進学を拒み、中学卒業と同時に職人の世界に入るが、ここで思いがけない逆風が吹く。家業の建具店が倒産し、計画は大きく狂った。のぼして増やした特売のラーメンで空腹をごまかすどん



独自の曲げ技法を駆使した桜の花びら

塩澤工芸

父の夢を家族全員でサポート



高森町の広域農道沿いに設けた展示場

底の3年間を経て建築会社に拾われ、2年後に協力業者として独立。中学の同級生と結婚し、子どもが生まれた。この間、組子細工を忘れた日はなかったが、大工の力仕事と繊細な組子作りは両立が難しく、悩み抜いた末に「家族を養うため、大工に専念するしかない」と妻に打ち明けた。しかし、教室の隣の席で将来の夢を聞いてきた妻は認めない。

「何をつとめるの?昔からの夢が捨てきれんのなら、やろうよ。腕はあるんだら?駄目なら大工に戻ればいら」最年少記録の27歳まで、あと2年。背中を押された翌日、急造の工房を設けると、組子細工を施した衝立や屏風を作り、トラックで売り歩いて生活費を稼いだ。

アート作品の制作を始めたのは10年前から。住宅の洋風化が進む中、単に仕事を持つ受身の状態から、自ら発信する攻めに転じようと組子細工の額装を作り、地元で展覧会を開くと、3日で2000人が来場した。

その後、一つの出会いをきっかけに大都市の百貨店での展覧会が恒例化し、今では県外からのオーダーが仕事の大部分を占めている。独自の曲げ技法で作上げた桜、山吹、藤の花びらは、一般の人が見てもそれと分かるのが特徴だ。



〒399-13101
長野県下伊那郡高森町山吹977
TEL.0265(48)6047
FAX.0265(48)6048

塩澤工芸

「反面教師の側面もある」との思いから、子どもに跡継ぎの話はしてこなかったが「父の作品は世界に通用する。自分も手伝えたい」というのが4人の一致した考えだ。長女(20)は、通訳兼職人として父の海外進出を手助けしようと、語学留学を経て塩澤工芸に就職。高校で建築を学んだ長男(18)も今春から父の元で修業を始めた。商業科に進んだ高1の次女は会計面で、中3の次男は画力を生かし、下図で父を支えたいという。

がむしやらな日々を過ごしている。組子細工を全面に施した夏障子という、全国展出品にふさわしい大作の仕事が入った。

塩澤さんの転機

- ・10歳で組子細工に心底感動。今もブレないビジョン(マニアックな組子を一般に親しみやすくし、世界発信)を固める
- ・諦めかけた夢に最大の理解者である妻が再点火
- ・受身から攻めに転じ、全国展開に成功

2019年春
創刊

三遠南信Bizは…
南信州新聞社(長野県飯田市)の提案で小さくスタートし、東三河、遠州、南信州地域の皆様とともに少しずつ育てていく新媒体です。来春の創刊に向け、購読、広告、情報提供などでご協力いただけるサポーターを募集します。

毎月1回発行 400円/月 (お届けは郵送となります)

定期購読のお申し込みは

南信州新聞社

〒395-0152 長野県飯田市育良町2-2-5 TEL.0265-22-3734

☎0120-413-734 FAX.0265-24-0537 koudoku@minamishinshu.co.jp

メールでのお申し込みはこちら

